

SANS FRONTIERES vol.7

はじめに

瑞西における「軍用銃保有」の如何を問う国民投票で銃規制支持派が敗れました。瑞西というとアルプスに代表される美しい自然に恵まれ永世中立国として世界にも類を見ない平和を享受している民主主義国家というイメージが強いです。しかし、瑞西は徴兵制度を有するヨーロッパ屈指の軍事大国という側面もあるのです。また、同国は古くから傭兵を各国に送り出してきた国でもありました。2年生が修学旅行で訪れたパチカンでも派手な衣装を身につけた瑞西人傭兵を目にしたでしょう。

何故永世中立の民主国家瑞西で徴兵制度が存在し、銃保有が国民の権利として同国憲法18条で保障されているのでしょうか。そこには米国の銃保有の考え方や歴史的背景とも共通するところがあるのだと思います。すなわち、民主主義や平和は他人から与えられるものではなく、自ら勝ち取り守り抜くものであり、その主体として闘う者こそ民主主義の主権者であるという思想がその根底に存するのです。悪代官ゲスラーを武力で追放し、民衆の権利を守り抜いたヴィルヘルム・テルという伝説上の人物が英雄とされる所以でしょう。

私は国民が銃を持つことを決して肯定はしません。それが犯罪の温床ともなりうるからです。しかし、民主主義は単なる多数決と考えたり平和は誰かが与えてくれるものだという消極的な姿勢しか持てない日本人はもう少し瑞西や米国の歴史から学ぶ必要があると思うのです。

医歯薬講演会

12月6日に、本校の卒業生であり、現在は日製ひたちなか病院で研修医として日々研鑽を積んでおられる、渡部衣美先生をお迎えして、医歯薬講座が開かれました。先生は「初期研修医から見える風景」という演題でご自分の貴重な体験を丁寧に語ってくださいました。睡眠と学習効果との関連など興味深いお話に生徒達は真剣に耳を傾けていました。



大学出張模擬授業

2月10日(木)

に、千葉科学大学による出張模擬授業が実施されました。講義内容は以下の4テーマです。1・2学年医歯薬コースの生徒を対象に、大学の出張模擬授業が行われました。以下のテーマで講義が行われました。遠藤将一先生「宇宙の創生」、柴原壽行先生「生命科学の進展に貢献する実験動物」、畑明寿先生「臨床検査技師ってなあに?」、細川正清先生「薬はどうして効くの?」。専門的な内容をわかりやすく講義していただき、生徒たちは改めて医療の大切さや科学のおもしろさを実感していました。



生徒の感想：薬学の大切さがよくわかった。科学技術の習得の他に、医療人として欠かすことのできない人間性を学ぶことで、患者さんの心の痛みまで共有できる人間を育成するという薬学部の使命というところに感動しました。医療にたずさわる人は常に患者さんの身になって考えなければいけないことがよく分かった。

女性講座

9月14日に、本校の女子生徒を対象に「思春期における性」というタイトルで、講演会が開かれました。講師は、植田美津恵先生(医学ジャーナリスト、医学博士、首都医校副校長、看護師・保健師・法学士・社会科学修士)です。質問も活発にでるなど、大変ためになるお話を伺うことが出来ました。



総合学習発表会

10月23日、25日の2日間、医歯薬コース2年生による総合学習の発表会が行われました。自分たちが選んだテーマについて調べ、資料を作成して発表しました。聞いていた1年生からの鋭い質問もあり、普段の授業とは違う学習ができました。2学年発表テーマ：「痛い口内炎」、「愛玩動物の病気とその治療法」、「メタボリックシンドロームについて」、「ロケットエンジン」、「世界に向けた医療支援」、「アニマルセラピー」、「ジェネリック医薬品について」、「薬について」、「ウィルス



と細菌、「たばこの健康被害」。また、2月5日、7日の2日間、医歯薬コース1年生による総合学習の発表会が行われました。2学期に行われた2年生の発表を参考に、自分たちでテーマを選び、資料を作成しました。身近な健康についての発表もあり、積極的な質問も多くありました。1年生発表テーマ「食品添加物」、「目」、「iPS細胞」、「東洋・西洋医学」、「夢」、「色覚障害」、「うつ病」、「難病」、「癌」、「HEY HAY FEVER」



茨城県医師会シンポジウム 11月21日(日)に、第31回茨城医学会第21回地域医療分科会「茨城の在宅医療を考える」が行われました。茨城県医師会常任理事 川島房宣先生の司会の下、介護老人施設生きいき倶楽部 太田秀樹先生の「命を救う医療から、人生を支える医療へ」を演題とした基調講演の後、シンポジウム「その人らしく生きるために」が行われ、マスメディア、看護師、医師、それぞれの立場からQOL重視の在宅医療に関する発表がありました。主に医師を志望する本校の生徒13名が参加し、茨城県の医療が抱える問題についての実状を知ることができ、茨城県の医療従事者になるにあたっての志気を高めました。

修学旅行 2年1,2組は11月26日から12月2日という日程で、パリとローマを見学しました。古い歴史と文化に触れ、また、現地の方々との会話に挑戦するなど、生徒たちは学び、楽しみ、また一つ成長して帰ってきました。



生徒の感想「モン・サン・ミッシェルが遠くに見えた時『神秘的』なものを感じた」(男子)、「英語だけでなく、仏語や伊語での挨拶に挑戦できた。答えてもらった時は嬉しかった」(女子)、「凱旋門の上から見た風景を通して、一方向からではなく視点を変えて見る大切さを学んだ」(女子)、「昔の建造物が何を現代に伝えているかを知ることができた」(男子)、「外国に行ったことで、自分が日本人だと再認識した」(女子)

未来への伝言 医歯薬コース1学年の生徒は、2月20日(日)に茨城県民文化センター小ホールで開催された講演「未来への伝言～平和の旋律、被爆ピアノと共に！」に参加しました。



福祉体験 水戸生涯学習センターでは、図書整理や環境美化、子どもを対象とした「エンジョイ・サタデー」への協力などのボランティアを募集しています。医歯薬コースでも2名の2年生が活動に参加しました。「年長者の仕事の能率の良さに学んだ」(図書整理に参加)「スタッフや行事の参加者とふれあうことができよかった」「たくさんの人と協力してやりとげる達成感があった」(「エンジョイ・サタデー」参加)

推薦図書 『失われた「医療先進国」』 岩本裕, NHK取材班(講談社)
この本は現在「週刊こどもニュース」のキャスターとして活躍している岩本裕さんが現在の日本が抱える医療現場の問題点を取材し解説している。減り続ける救急病院、不足する小児科医、病院「たらい回し」などで死亡する患者等の問題について、その原因を解き、解決の処方箋を探っている。これから医療関係の進路を考えている生徒は勿論のこと、その他の生徒も是非読んでこれからの日本の医療について考えるきっかけにして欲しい一冊である。



推薦入試 医歯薬コースの3年生はAO・推薦入試で有名・難関大学に挑戦し、お茶の水女子大学、上智大学、筑波大学など多くの大学に見事合格することができました。推薦入試では、学科試験を課す大学が多いため、日頃からの学力が問われるのはもちろんのこと、2年生から継続的に準備していた志願理由書や面接の練習の成果が発揮されたとと言えるでしょう。

医学部入試情報 1月15日(土)、16日(日)にセンター試験が実施されました。2日目は雪が積もるなど悪天候が心配されましたが、順調に試験を終えました。昨年は理系科目が非常に難しかったのですが、今年は全国平均で、数学I・Aで+17点、物理Iで+10点アップしたのを筆頭に、英語、国語も同様に平均点が上昇しているようです。理系型の全国平均が30点近く(計900点)あがると予想され、強気の出願が目立ちそうです。医療系も各分野で高い伸びを示しており、このうち、難関の医学科では強気の志向を反映してか、出願予定者は前年比113%(河合塾)と大きく増加しています。

行事予定 3月1日(火)～5日(土) MT , 3月3日(木) 第24回卒業式
3月22日(火) 終業式, 大学合格体験談
3月24日(木)～3月31日(木) 春期課外授業(土日を除く)
4月6日(水) 始業式 4月7日(木) 入学式